

(1) 実施機関名：

京都大学防災研究所

(2) 研究課題(または観測項目)名：

史料の収集・翻刻・解析による過去の大地震および自然災害の調査

(3) 最も関連の深い建議の項目：

1. 地震・火山現象の解明のための研究

(1) 地震・火山現象に関する史料，考古データ，地質データ等の収集と整理

ア. 史料の収集とデータベース化

(4) その他関連する建議の項目：

1. 地震・火山現象の解明のための研究

(2) 低頻度大規模地震・火山現象の解明

ア. 史料，考古データ，地質データ及び近代的観測データ等に基づく低頻度大規模地震・火山現象の解明

2. 地震・火山噴火の予測のための研究

(1) 地震発生長期評価手法の高度化

3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究

(1) 地震・火山噴火の災害事例の研究

4. 研究を推進するための体制の整備

(3) 関連研究分野との連携の強化

(4) 研究者，技術者，防災業務・防災対応に携わる人材の育成

(5) 優先度の高い地震・火山噴火との関連：

南海トラフの巨大地震

(6) 本課題の 5 か年の到達目標：

地震史料の収集、翻刻、解析により、過去の地震および関連する現象についての情報を得る。特に南海トラフの巨大地震にともなう上下地殻変動の解明、および、地震の本震・余震の分離や震源域の確定、地震にともなう災害(強震動、地盤沈下、地すべり、洪水など)の理解を目指す。地震が一定の期間を置いて繰り返す性質があることから、過去の履歴をより詳細にとらえることで防災・減災に貢献する。また、史料には地震そのものだけでなく、これによる被害状況やそれへの対応などの情報も含まれており、研究計画のことばを借りれば「災害誘因」「災害素因」を合わせた情報を得ることにより、地域の防災・減災に貢献できると考えている。

(7) 本課題の5か年計画の概要 :

史料の収集および現地調査、史料の解読をおこない、得られたデータをもとに過去の地震の解析を実施する。斜面崩壊や洪水などの災害、地変など付随する諸現象にも着目する。対象は、史料の収集状況にも依存するが、たとえば南海トラフの巨大地震、内陸の大地震(特に斜面崩壊をともなったもの。たとえば、慶長伏見地震、寛文近江若狭、弘化善光寺地震、安政伊賀上野地震、寛政雲仙噴火、天明浅間噴火)などである。

あわせて、歴史学の専門家の協力を得て、合宿形式等の研究会(翻刻を主とした史料解析の実践)を開催するなどして、地震学のバックグラウンドをもちながら史料の解読もできる人材を育成する。

以上の研究については、5年間継続して実施するが、平成26年度~27年度は内陸地震、平成28年度~30年度は南海トラフの巨大地震について調査・解析をおこなうこととする。合宿形式の研究会については毎年実施する。

(8) 平成26年度の成果の概要 :

史料の収集および現地調査と史料の解読を行い、得られたデータをもとに過去の地震の解析を実施した。今年度は特に、弘化四年善光寺地震、安政二年江戸地震、天明三年浅間山噴火、安政三年の江戸風水害を対象とした。弘化四年善光寺地震および天明三年浅間山噴火については、京都大学が所蔵する史料を中心に解読を行い、既存の史料集に収録されている史料との比較検討を行った。安政二年江戸地震および安政三年の江戸風水害については、史料の翻刻を実施した。

歴史学の専門家の協力を得て古地震に関する研究会を開催した。この研究会の内容は、翻刻を主とした史料解析の実践および歴史学に関する話題の講演である。翻刻にあたっては歴史学の専門家の指導および史料の背景の説明を受けた。また講演では、古文書解読の背景となる知識を得た。この研究会は、地震学のバックグラウンドをもちながら史料の解読もできる人材の育成の端緒となっただけでなく、歴史学、人文情報学、地質学、気象学、地震学といった幅広い分野の研究者および学生の研究交流の場ともなった。

以下にこれまで解読した、あるいは解読中の史料について、名前、対象とする地震等をしるす。

- ・「信越震漲録」, 弘化四年善光寺地震
- ・「弘化四丁未大地震御届書写」, 弘化四年善光寺地震
- ・「信州大地震前後天災之記事」, 弘化四年善光寺地震
- ・「見聞書写」, 天明三年浅間山噴火
- ・「浅間の記」, 天明三年浅間山噴火
- ・「浅間山焼候二付松平讃岐守見分候者届出二書付」, 天明三年浅間山噴火
- ・「浅間山焼大変記」, 天明三年浅間山噴火
- ・「浅間山焼一件」, 天明三年浅間山噴火
- ・「信州浅間山土砂降り所々書上并はなし」, 天明三年浅間山噴火
- ・「信州大地震聞書」, 弘化四年善光寺地震
- ・「弘化四未年三月信濃国大地震二付同国在陣御代官届書写」, 弘化四年善光寺地震
- ・「丁未震災録」, 弘化四年善光寺地震

(9) 平成26年度の成果に関連の深いもので、平成26年度に公表された主な成果物(論文・報告書等) :

加納靖之・服部健太郎・中西一郎・岩間研治・植草眞之介・五島敏芳・福岡浩・安国良一・渡辺周平,

2014, 京都大学に所蔵されている自然災害史料の解読と画像化 - 弘化四年善光寺地震と天明三年浅間山噴火 -, 京都大学防災研究所年報, 57B, 102-105.

京都大学学術支援室, 2015, 京都大学アカデミックデイ2014報告書.

(10) 平成27年度実施計画の概要 :

平成 27 年度は、内陸地震を中心に、南海トラフの巨大地震についても一部調査・解析を行うこととする。内陸地震はたとえば、慶長伏見地震、寛文近江若狭、弘化善光寺地震、安政伊賀上野地震、寛政雲仙噴火、そのほか、天明浅間噴火についても史料の解読・調査・解析を実施する。合宿形式の研究会（翻刻を主とした史料解析の実践）については継続して実施する。

(11) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

京都大学防災研究所 加納靖之
京都大学大学院理学研究科 中西一郎
他機関との共同研究の有無：有
京都大学総合博物館 五島敏芳
新潟大学 災害・復興科学研究所 福岡浩

(12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名：京都大学防災研究所附属地震予知研究センター
電話：
e-mail：
URL：<http://www.rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

(13) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：加納靖之
所属：京都大学防災研究所附属地震予知研究センター